

相双地方における森林環境基金事業の取り組みについて

福島県相双農林事務所森林林業部
主任主査 宗方 宏幸

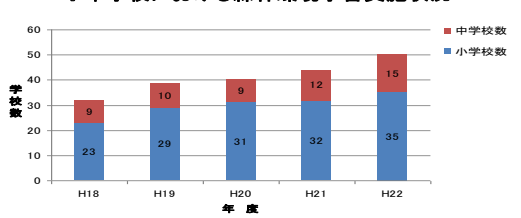
NPO法人松川浦ふれあいサポート
理事 佐藤 邦房

1 発表内容

- ・各小中学校における基本枠(森林環境学習の取り組み)
- ・各市町村における地域提案重点枠の取り組み
- ・復興に向けた森林環境基金事業の取り組み
- ・森林ボランティア活動支援事業を活用した活動の再開(NPO法人 松川浦ふれあいサポートの活動)

2 基本枠の取り組み

小中学校における森林環境学習実施状況

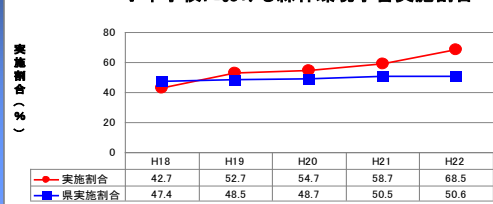


学校数の推移

→取り組み実施は増加傾向

2 基本枠の取り組み

小中学校における森林環境学習実施割合



実施割合の推移

→18年約43%が、22年約70%の学校で実施へ

2 基本枠の取り組み

地域特性を活かした活動



学校近くの森林を利用した樹木観察会

2 基本枠の取り組み

地域特性を活かした活動



地元生産者の指導によるしいたけ植菌体験

2 基本枠の取り組み 地域特性を活かした活動



森林組合指導による保育作業(枝打ち)体験

2 基本枠の取り組み 地域特性を活かした活動



地元森林組合製材工場の見学会

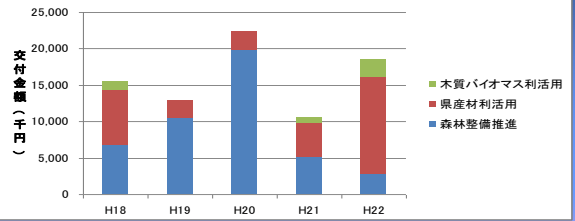
2 基本枠の取り組み 地域特性を活かした活動



顔の見える家作りグループ指導による木工教室

3 重点枠の取り組み

地域提案重点枠事業実績



年度別の推移

・18~20年は森林整備、21~22年は県産材利用

3 重点枠の取り組み

・野生動物との共存(住み分け)を図った森林整備



施行前



施行後

3 重点枠の取り組み

・海岸松林でのボランティア植樹



植林状況



郡山海岸林

3 重点枠の取り組み

・ペレットストーブの公共施設(小学校)への設置



3 重点枠の取り組み

・木製品の設置



・学習机とイス

・休憩所のテーブル
(パークゴルフ場)



3 重点枠の取り組み

・小学校の内装木質化



4 東日本大震災発生

平成23年3月11日



4 東日本大震災発生



津波被害を受けた製材工場



製材工場土場崩落



菌床しいたけ施設被害

4 東日本大震災発生

・活用のないまま、避難を余儀なくされた・・・



・子育て支援施設(内装木質化)



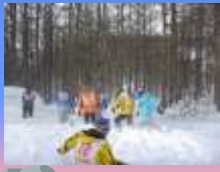
・若者定住化施設(ペレットストーブ)



5 復興に向けた取り組み

- ・新たな「絆」作りの活動(基本枠)


浜通りから、中通り、会津地方へ

- ・避難先での環境学習
→浜通りとの違いを学んだ

5 復興に向けた取り組み

- ・応急仮設住宅地内の広場に木製遊具を設置(重点枠)



5 復興に向けた取り組み

- ・仮設住宅に木製ベンチを設置(重点枠)




5 復興に向けた取り組み

新「ほっと」スペース創出事業





- ・農林事務所とテクノアカデミー浜との連携

6 課題

- ・放射能の影響・不安(野外活動への懸念、制限等)
→森林との触れ合う機会をいかに作るか?
- ・復興との両立
→市町村等、優先する復興・復旧・帰還業務が多い
→森林環境学習等の事業の推進をいかに図るか?

森林環境基金事業事例
～大森山の森林づくり活動

NPO法人 松川浦ふれあいサポート
理事 佐藤邦房



NPO法人松川浦ふれあいサポートとは

松川浦の環境保全を主たる目的とし、次世代を担う市民に対して、松川浦の自然を通し、自然環境の大切さを学ぶ環境教育を実施することを目的にH21春に創設されました。

- 環境の保全を図る活動
- 子どもの健全育成を図る活動
- 社会教育の推進を図る活動
- まちづくりの推進を図る活動

これまでの歩み

・所在地：福島県相馬市尾浜




	H21	H22	H23	H24
環境公園	公園整備 (園児と花壇作り)	公園整備 オープン H23.3	公園復旧	公園復旧 再オープン H24.7
葦原	清掃活動	清掃活動		清掃活動
大森山	—	森林整備 H22.11～	森林整備	森林整備

震災による影響・・・

- ・平成23年3月環境公園オープン、同3月26日には大森山の遊歩道開通式を予定していたが
- ・震災による甚大な被害
環境公園(事務所含む)の水没(破損)
整備機材等流出(破損)
塩害による樹木の枯損
- ・葦原(及び生育している生き物)の消失(防潮堤破壊)
- ・大森山の海岸部遊歩道の消失、震災がれきの漂着


3月11日以降の歩み

- ・環境公園
→事務所復旧、公園再整備(色々ありました)
→平成24年7月22日環境公園再オープン！！
- ・葦原(汽水の沼地)
→仮防潮堤の復旧(県建設事務所)
→震災がれき撤去・ごみ拾い(相馬市)
- ・大森山
→森林整備(間伐、下刈り、林内遊歩道整備、ベンチ作成)
森林ボランティア団体活動支援事業(H23、H24)



大森山の整備を始めるきっかけ、歴史

- ・古くから親しまれてきた地域の森林(頂上に山津見神社あり)
- ・相馬港整備以前は、船の目標に
- ・戦後は、薪炭林として塩焚き等に
- ・遠足、花見、元朝参り、憩いの里山だった
- ・相馬市立中村第二小学校の校歌にも歌われる



→環境公園からよく見えていたので、H22に足を運んだところ、放置され、笹竹、つる類の繁茂、樹木の過密化、「ジャングル」に・・・

大森山の作業経過

記憶に残る、美しい大森山を取り戻したい！！
「大森山をなんとかすっぺ」H22秋～

H22	H23	H24
12月～翌3月	4月～10月 森林ボランティア団体活動支援事業 11月～翌3月	森林ボランティア団体活動支援事業 4月～翌3月
下刈り 遊歩道整備	下刈り 遊歩道整備 間伐 ベンチ作り	下刈り 遊歩道整備 間伐

大森山の整備にあたって

- ・地域にある植物で地域の季節を感じられる森林整備
- ・地域の力を活かす
Gめん(NPOメンバー)の力を活かす
- ・無理をしないで、楽しく自発的に

→美しい里山(大森山)を取り戻し、次世代に引き継ぐ(美しい大森山を知ってもらいたい)

大森山の整備をして

- ・地域の人達が少しずつ訪れるようになり、再び大森山の名前が聞こえ始めた
- ・地域の小学生が大森山に遠足に来てくれた(60人程度)
- ・地域から活動への期待が持たれるようになった

大森山の整備をして感じたこと

- ・手探りの森林整備～

スタート時は、植物、森林整備に必要な作業、道具等、わからないことばかりだった

- 少しずつ色々なことがわかるようになってきたが、勉強の継続が必要
- 森林整備を通じ、地域にも自分達にも、大森山が近い存在に変わってきた(行きやすい場所に意識が変わった)
- 大森山が四季を通じ、生きていることを伝えてくれていることに気付いた(大森山を意識して見るようになった)

◎継続した森林整備を行ってきたい

ふれあいサポートの今後の活動

- ・相馬・松川浦の自然環境を伝える活動をしていく(環境教育の実施等)
- ・それぞれの環境を活かす整備を継続していく
- ・会員(Gメン)のスキルアップをしていく

フィールド整備計画

大森山
大森山の道
葦原(汽水の沼地)
松川浦環境公園

- ・市民の憩いの場となる公園
- ・芦原を身近で観察できる汽水域(保全)
- ・「相馬の季節」を感じられる地域の森

森林ボランティア団体活動支援事業を実施して

- ・地域とのつながりが出来た
- ・つながりを通じて、仲間が増えて、色々なことが出来るようになった
- ・技術面や財政面等、色々な支援となりありがたい

